

2013年7月1日

## 第 8 回 U N H C R 難 民 映 画 祭

2013年9月28日(土)→10月6日(日)

### 開催告知情報掲載のお願い

難民をテーマにした国内外からの選りすぐりの作品を無料で上映してきた UNHCR 難民映画祭は、たくさんの方のご支援、ご協力のもと今秋の開催で 8 回目を迎えます。東日本大震災から 2 年、日本でも社会的・人道的な活動に関心が集まる中、今年も日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北米発の 16 作品(うち日本未公開作品は 14 作品)を上映予定です。

昨年は難民、国内避難民などとして移動を強いられた人々の数は 4520 万人に上り、1994 年以来過去最多数となりました。また、760 万人が難民または国内避難民として移動を強いられ、これは、4.1 秒ごとに 1 人が家を追われたことを意味します(UNHCR2012 年間統計報告書)。「難民」という言葉を耳にした時に、多くの方々は砂漠や荒野の難民キャンプで暮らすどこか遠い国の人々のこと思い浮かべるかもしれませんが、しかしながら、上映作品は彼らが故郷を離れざるを得なかった様々な理由と状況を描きだす一方で、家族愛や望郷の思い、孤独など人間としての普遍的な感情をも映しだします。本映画祭の上映作品は、鑑賞後、深い感動や希望、時には悲しみや絶望感に包まれながら、今まで隔たりを感じていた難民たちに対する強い共感を呼び起こし、そして新しい見識に導いてくれる優れた作品ばかりです。

また、今年の映画祭では視聴覚障がい者向けのバリアフリー上映作品も予定しているほか、上映後は国連、NGO 職員やジャーナリストなどによるトークイベントも予定しています。メディアの皆さまにおかれましては、本映画祭の情報発信にご協力頂ければ幸いです。

### ■■■ 映画祭概要 ■■■

【タイトル】 第 8 回 UNHCR 難民映画祭 (8<sup>th</sup> UNHCR Refugee Film Festival)

【開催期間】 2013 年 9 月 28 日(土) - 10 月 6 日(日)

【会場】 都内 7 ヶ所を予定

【主催】 国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所

【パートナー】 特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会

【注意事項】 入場無料・先着順入場です。満席の場合は入場をお断りすることがあります。上映作品・上映スケジュール、トークイベント等については、ホームページで随時ご案内します。

【公式サイト】 <http://unhcr.refugeefilm.org/>

【上映内容】 世界各国から集められた 16 作品の上映を予定しております。ドキュメンタリーやドラマを通じて描かれる世界の難民問題にまつわる映画、そのほとんどが日本初上映作品です。

【お問い合わせ】 国連難民高等弁務官(UNHCR) 駐日事務所 広報室 (担当: 今泉)  
〒107-0062 東京都港区南青山 6-10-11 ウェスレーセンター  
Tel 03-3499-2011 Fax 03-3499-2272 Email: [imaizumi@unhcr.org](mailto:imaizumi@unhcr.org)



国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR: United Nations High Commissioner for Refugees) とは紛争や迫害によって故郷を追われた世界の難民の保護と支援、難民問題の解決に向けて活動する国連の機関。1950 年 12 月に設立されて以来、5000 万人以上の生活の再建を支援。1954 年と 1981 年の二度、ノーベル平和賞を受賞。現在 7600 人以上の職員が 125 か国で 3390 万人以上の支援に従事している。日本では 1991 年から 2000 年の間、緒方貞子氏が高等弁務官を務めたことで知られている。  
■ウェブ [www.unhcr.or.jp](http://www.unhcr.or.jp) ■Facebook <https://www.facebook.com/unhcror.jp>  
■Twitter [https://twitter.com/UNHCR\\_Tokyo](https://twitter.com/UNHCR_Tokyo)

## 注 目 作 品



### 『シリア、踏みにじられた人々と希望』

日本初上映

原題： The Suffering Grasses

監督： イアラ・リー

アメリカ / 2012 年 / 52 分 / ドキュメンタリー

2011 年 3 月に中東シリアで勃発したアサド政権の反体制派と政府軍との内戦は、一般市民を巻き込んだ未曾有の人道危機へと発展した。周辺国に逃れた難民の数は既に 170 万人を超え、425 万人がシリア国内で避難を余儀なくされている。監督のイアラ・リーは 2012 年にトルコのシリア難民キャンプを訪問、インタビューを行った。本作は独創的な手法で凄惨な内戦の様子や、一日も早い平和を望むシリア国民の悲痛な声を浮き彫りにすると同時に、暴力と非暴力運動の狭間で揺れ動くシリアの人々の声を捉え、見る者に平和のあり方についての疑問も投げかける。世界各国 7 つの映画祭で受賞。



### 『異国に生きる-日本の中のビルマ人』

監督：土井敏邦

日本/2012 年/100 分/ドキュメンタリー

バリアフリー(音声ガイド・字幕付き)上映(予定)

民主化改革で近年注目を集めるミャンマー。本作は、難民として東京に暮らすミャンマー人青年の 14 年間の記録をまとめたものである。主人公チョウ青年は、1991 年に軍事政権の弾圧を逃れ日本に渡り、その後 20 年以上日本で政治活動を続けている。祖国のための民主化運動に奮闘する一方で、家族や故郷への想いを捨てきれないチョウ青年。異国で生きる人々の苦悩や孤独、家族愛、そしてチョウ青年の祖国を思うひたむきな純粋さが見る者の心を打つ傑作。監督は「沈黙を破る」(2009 年度キネマ旬報文化映画ベスト・テン第 1 位)、「私」を生きる」(2012 年度キネマ旬報文化映画ベスト・テン第 2 位)の土井敏邦監督。